

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	遠藤 大輔	学校名	東京 ⑧・道・府・県 立板橋有徳高等学校
担当教科等	論理・表現 I	対象学年（人数）	1 年 5 組（35 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	4 年 1 2 月 1 3 日（火）～20 日（ 3 時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語（英語）		
2. 単元(活動)名：Trouble and Accidents		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「多文化共生 through SDGs」 単元目標：地域に住む外国人と共生するために必要なものについて考え、SDGs との関連について学ぶ。 関連する学習指導要領上の目標： (3) 書くこと イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構造や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。		
4. 単元の評価 規 準	①知識及び技能	「多文化共生」のために自分たちができること、取り組んでみたいことについて、助動詞 can や should を使いながら、英語で論理的に書ける。
	②思考力、判断力、表現力等	聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、「多文化共生」のために自分たちができること、取り組んでみたいことについて英語で論理的に書ける。
	③学びに向かう力、人間性等	「多文化共生」について自分の意見を英語で書き、相手に伝えられる。また相手の意見を読み、理解しようとする。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 国際化が加速する今日生き方や価値観は多様化し、私たちの生活環境も大きく変化している。数年のうちに社会に出る高校生も「多文化共生」の考えを持ち、他文化の特長を認め、互いに有機的に結びつきながら自分が暮らす地域や国を発展させなければならない。今回の授業では高校生が「多文化共生」を「自分事」として捉えられるように学校の所在地である東京都板橋区とも関連を持たせる。生徒は板橋区を観光地・居住地として見たとき外国人にはどのように映っているか資料から分析し、問題の解決方法について話し合う過程で自分たちにできることについて考える。最終的に「異文化に対する想像力」と「多文化共生の考え方」を習得し、「多文化共生」に向かうことが SDGs の目標達成と関係していることに気付くことができると考えこの単元を設定した。	

	【単元の意義】 観光客のレビューを英語で読んだり、「多文化共生」のための問題解決に向けた提言を英語で書いたりする活動を通じて、自分とは異なる文化で育った人たちの行動や考え方に対する想像力を身に付け、「多文化共生」の重要性を認識することができる考える。 【児童／生徒観】 助動詞can/shouldを含む基本的な英語について理解している生徒が多いが、英語が苦手な生徒も多い。授業中の活動には積極的に参加する生徒が多い。ジグソー法での授業には慣れていないが、持ち前の積極性を発揮してほしい。 都心に近い学校のため、生徒の生活圏に外国出身者も暮らす環境にあるが、「多文化共生」の考えを十分に理解している生徒は少ない。 【指導観】 生徒が「多文化共生」を「自分事」化できるように、今回は彼らが暮らす東京を外国人にとっての観光地・居住地として考えてみる。生徒の生活圏の話題を入り口にして生徒にとって馴染みある内容にし、またジグソー法で活発なグループワークを行うことにより、生徒全員が積極的に授業に参加できる環境を作りたい。
--	---

6. 単元計画（全3時間）

	小单元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	旅行先のレビューを投稿しよう	日本の観光地に対する外国人と日本人の捉え方の違いを理解する	外国人観光客から見た各観光地の評価について調べ、改善策を考える。 ジグソー法を用いることで問題解決に向けた意見交換を活発に行い、テーマに対する考えを深める。	1班3名 観光地： ①伏見稲荷大社 ②富士山 ③秋葉原
2 本時	外国人と暮らそう	外国人住民と共生することについて考える	「多文化共生」をテーマに外国人住民と暮らす際に起こった問題についてその背景を知り、解決策を考えて提案する。 ジグソー法を用いることで問題解決に向けた意見交換を活発に行い、テーマに対する考えを深める。	・在留外国人が多い市区町村（訪日ラボ） ・課題文 （『外国人集住団地——日本人高齢者と外国人若者の“ゆるやかな共生”』岡崎広樹から）
3	外国人と共生しよう	事例から外国人と共生する具体的方法について考える。 また、共生を目指すこととSDGsとの関連を考える。	「多文化共生」ためには何が必要かについての自分の考えを、前時で学んだ事を活かしながらまとめる。 自分の考えは助動詞のcan/shouldを適切に用いて英訳し、3学期のスピーチコンテストにつなげる。	自治体 HP（川口市、板橋区）

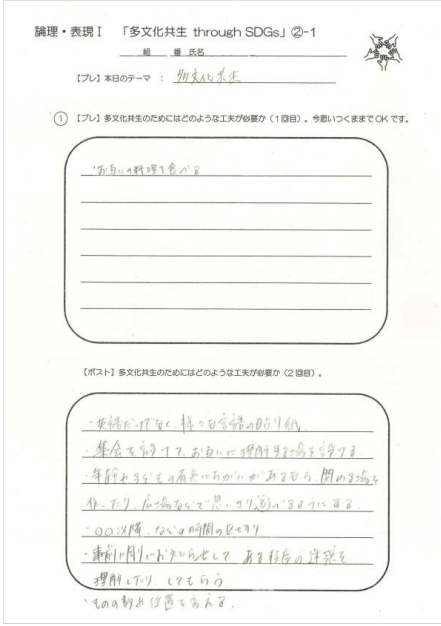
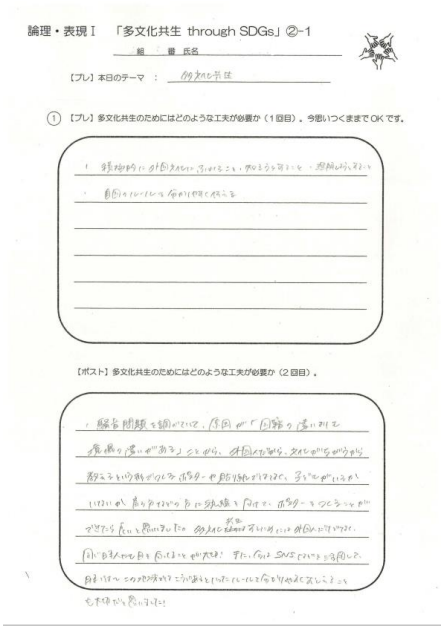
7. 本時の展開 本時のねらい：外国人と暮らす際に起こる問題についてその文化的背景を考える活動を通じ、文化や宗教によって1つの事実に対する考え方は多様だがこのことを互いに理解し尊重し合うことが重要だと気付かせたい。授業を通じ、生徒が「異文化に対する想像力」と「多文化共生の考え方」を身に付けることを目標とする。			
2 時間 目(本時) 過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1 外国人に人気の移住地TOP10を推測する。	・パワーポイントでスライド投影する。	在留外国人が多い市区町村(訪日ラボ) ①埼玉県川口市 ②東京都新宿区 ③東京都江戸川区 ④東京都足立区 ⑤東京都江東区 ⑥東京都板橋区 ⑦大阪市生野区 ⑧東京都豊島区 ⑨東京都大田区 ⑩東京都世田谷区
展開 1 (5分)	■プレ 本日のテーマ「多文化共生」を発表。	・ワークシート	
展開 2 (15分)	2 「「多文化共生」のためにはどのような工夫が必要か」という問いについての自分の考えをワークシートに記入する。 3 課題文を読む。(事前に配布済み) ■ジグソー(1) 4 課題文から読み取れる3つの問題を確認する。 ■エキスパート 5 3つの問題について、どのような問題か、なぜ日本人住民との間でもんだとなったのか考える。(事実確認、原因) ①ごみ問題 ②騒音問題 ③におい問題	・現時点での考えをそのまま書く。 ・ジグソー法 ・ワークシート ・課題文から読み取った内容について話し合っているか。適宜話し合いを促す。 ・全員が情報を得ているか ・「共生すること」を意識させる	・課題文 (『外国人集住団地——日本人高齢者と外国人若者の“ゆるやかな共生”』岡崎広樹から)
展開 3 (10分)	■ジグソー(2) 6 この3点の問題がどのような問題だったと思われるか、考えを共有する。 (One picture)	・ワークシート ・エキスパートで得た情報を共有できているか。	

展開 4 (10分)	■ジグソー(3) 7 解決するためのアイデアを出し合う。	・ワークシート	
展開 5 (5分)	■クロストーク 8 ジグソー活動で出たアイデアを発表し、クラス全体で共有する。共有したアイデアは、ポスト活動の参考にする。 ■ポスト 9 「多文化共生」のためにはどのような工夫が必要か」という問いについての自分の考えをワークシートに記入する。	・他班の発表をメモするよう促す ・プレからの変容が明確になるワークシート	
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ①知識及び技能：助動詞 can/should を適切に使い、自分の考えを英語で論理的に書ける。(ワークシート) ②思考力、判断力、表現力等：聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、自分の考えを英語で書ける。(ワークシート) ③学びに向かう力、人間性等：グループワークに参加し、仲間と協働しながら目標達成に向けて意見を言える。(観察、振り返り)			
9. 学習方法及び外部との連携 学習方法：個人端末、ジグソー法 外部との連携：JICA 出前講座			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 ・総合的な探究の時間を活用した SDG s 講演(1 年次) ・論理・表現 I の担当教員全員での SDG s 関連授業実施			

【自己評価】

11. 苦勞した点	・年間授業計画との整合性（時期、内容） 本研修に参加することを決めた時点で年間の授業計画は決まっており、時期的にも時数的にも SDG s や国際理解教育に関する授業を追加で行う余地はなかった。また内容的にも教科書の内容と必ずしも合致しているわけでもなく（といって関連のない内容を扱う時間的な余裕もなく）、関連を持たせることに苦勞した。 今回は同じ授業を持つ先生方の理解と協力を得ることができ、2 学期期末考査後に 3 時間授業実践を行うことができた。内容については 3 学期に予定されているスピーチ活動の一部とすることで関連性を確保した。
-----------	---

	・ジグソー法による授業実践 今年度は英語コミュニケーションなどまとまった量の英文を読ませる授業を担当していないためジグソー法を使っておらず、生徒にとっては初めての経験だった。3時間と時数が限られるため、授業直前の答案返却後にジグソー法による授業形態について説明した。 ・授業の導入 教科書の内容との関連が希薄ななか、生徒に「なぜ今、これを学習するのか」理解してもらう必要があった。3時間の導入部分において教科書との関連を示すと同時に授業の目的及び多文化共生についての私自身の考えを明確に伝えることを重要視した。また、授業内容にスムーズに入れるように、生徒の興味関心を高める導入を行おう、と準備に時間をかけた。
12. 改善点	・総合的な探究の時間との関連 本校は国際理解教育を教育の柱の一つに据えており、総合的な探究の時間を中心に時数が確保されており、JICAの出前授業も活用させてもらっている。また私自身もSDGsと国内の難民について高校1年生に話す機会をいただいている。これらの取り組み内容と時期を本研修の授業実践と有機的に組み合わせられれば、生徒は国際理解についての理解をより効果的に深められる。 ・ジグソー法の習熟 ジグソー法による授業を8年ほど前から実践している。関連の本を読み、生徒をアクティブにすることに難しさを感じている先生方と取り組んできたが、今年度は実践できる授業を担当していないため機会を失っていた。今回はエキスパート活動において生徒間のコミュニケーションを促さなかった（1時間目には促したのに）など、私自身が習熟していない面が出た。継続的に授業を行い、研修などで新たな視点を取り入れる必要性を感じている。
13. 成果が出た点	・生徒の変容 プレとポストにおいてテーマについて率直な意見を書かせた。結果として多くの生徒に大きな変容を見ることができたのは成果の一つだと言える。東京に暮らす彼らにとり、異文化に触れることはそう珍しいことではない。しかし、「多文化共生」を軸に日常を見てみると、今まで見えていなかった問題点や関係を築くことの難しさに気づく。 今回の授業で生徒は自分の日常を新しい角度で見つめ、問題点を発見し、解決方法を考えた。自由に発想してもらい、みんなで実現可能な解決方法について考えられた。新しい視点を持たせ、とまでは言えないかもしれない（そのためには継続的に授業を行い、考えを深めることが必要）が、今までとは少し違う考え方ができるようになればな、と思う。 ・知らなかった一面 ジグソー法の授業に取り組むことによって、「この生徒はこんなに話せるんだ」「こんなに楽しそうに話すんだ」とこれまでの授業で見ることができなかった一面を見ることができた。

14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	・プレとポストで書かせたワークシート ①  ②  テーマは「多文化共生のためにはどのような工夫が必要か」とした。授業前（プレ）は「多文化共生」の説明を聞いても具体的に思い浮かぶ場面がないため書けることが少ない。授業で具体的な場面について学び、授業後は解決方法まで考えられている。 予想よりも活発な話し合いが行われたため、解決方法について自由に発想させた後、「その解決方法をどのようにして行うか」に注目させ、実現可能な解決方法について考えた。 「罰則を与えればいい」「日本のルールに従うべきだ」など高校生らしい(?)意見も少なからずあるなかで、「みんなで守れるルールをみんなで作る」という意見や②のように「異文化対日本人」という枠組みを越えて考えられる生徒もいた。
15. 授業者による自由記述	提出期限最終日にこの報告書を必死に書いているほど時間的な余裕がなく、研修に参加したことを少し後悔したこともありましたが、でも、夏の視察研修で見た私には新しい世界、授業実践で得た先生方からの協力、生徒の新しい一面は研修に参加したからこそ得られたもの。今後の教員生活の道しるべです。JICA スタッフの緻密な計画と気遣いと行動力に感謝します。

使用した教科書・単元名：be English Logic and Expression I Lesson15 Troubles and Accidents

参考資料：『外国人集住団地——日本人高齢者と外国人若者の“ゆるやかな共生”』岡崎広樹

訪日ラボ

※ 過去の本研修参加教員による実践事例と使用教材、ワークシートなどをJICA ホームページに掲載しています。是非ご覧ください！

<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>



- ① 【プレ】外国人観光客に日本の観光地のすばらしさを伝えるためにはどのような工夫が必要か（1回目）。
今思いつくままでOKです。

Blank area for writing the answer to question ①.

- ③ 【ポスト】外国人観光客に日本の観光地のすばらしさを伝えるためにはどのような工夫が必要か（2回目）

Blank area for writing the answer to question ③.

組 番 氏名

②

【ジグソー①】 ペアごとに担当する観光地を決める。

【エキスパート】 同じ観光地のペアで集まります。担当する観光地について外国人観光客が書いたレビューを読んで、評価が低い理由を考えてみよう。みんなが
()に記入できるように協力すること！

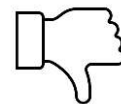
A 伏見稲荷大社 B 富士山 C 秋葉原

【ジグソー②】 エキスパートで話し合った内容を、ジグソー班で共有しよう。Aの人からスタート！

なぜ低評価？

A 伏見稲荷大社

(1.)や(2.)がなく、また駅からの
(3.)もない。(4.)に対する配慮がない！
人が多すぎて(5.)もとれなかった。



B 富士山

人が(1.)で、(2.)の種類が少なかった。ツアーバスの
システムが(3.)だった。(4.)設備が受け入れられな
いほどひどかった。

C 秋葉原

(1.)や(2.)が良くなく、ゲームセンターは
(3.)て(4.)。また、誰も(5.)ない。

〈日本の観光地にはどんな工夫が必要？〉

- ・ _____
- ・ _____
- ・ _____

〈ほかのグループの発表についてメモしよう〉

論理・表現Ⅰ 「多文化共生 through SDGs」②-1

組 番 氏名 _____



【ブレ】本日のテーマ : _____

- ① 【ブレ】多文化共生のためにはどのような工夫が必要か（1回目）。今思いつくまでOKです。

【ポスト】多文化共生のためにはどのような工夫が必要か（2回目）。

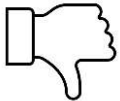
② 【ジグソー①】 課題文1から分かるこの団地で起こった問題は？

A. _____問題 B. _____問題 C. _____問題

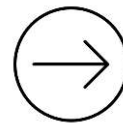
③ 【エキスパート】 自分が担当する問題を決め、同じ担当の人たちで集まり、どんな問題だったか話しましょう。みんなが意見を言えるような気配りをしよう！

自分が担当する問題： ____ . _____問題

〈どんな問題だったか〉

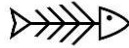


〈なぜ起こってしまったのか？〉



④ 【ジグソー②】 まずエキスパートで話し合った内容をジグソーで共有します。解決のためのアイディアはホワイトボードに班ごとに書いてください。

A _____問題



〈どんな問題だったか〉

〈なぜ起こってしまったのか？〉

〈解決に向けてのアイディア〉



B _____ 問題

〈どんな問題だったか〉



〈なぜ起こってしまったのか？〉

〈解決に向けてのアイデア〉



C _____ 問題

〈どんな問題だったか〉



〈なぜ起こってしまったのか？〉

〈解決に向けてのアイデア〉



⑤ 【クロストーク】 他の班のアイデアをメモしよう

--	--	--	--	--	--

組 番 氏名



論理・表現のクラス 基礎 ・ 標準 ・ 応用

1. 多文化共生に向け、何が大きな壁になっていると考えますか？

2. 1. で書いた「壁」の具体例を書きましょう。

3. 多文化共生に向け、話し合いのなかや課題文から得たアイデアの中で、あなたが「壁」を乗り越えるのに有効だと思うものを1つ選びましょう。

4. そのアイデアを実行すると、何がどう変わりそうですか？

5. 外国人と共生することは、SDGsの目標のうちどれに関係すると思いますか？班のメンバーと話してみましょう。

自分の意見

- ・ SDGs の目標 No. _____
- ・ なぜそう思うか _____

・なぜそう思うか

班のメンバーの意見

- ## 6. スピーチのひな型

Today, more and more people have come to live in Japan. We live in a multi-cultural society.

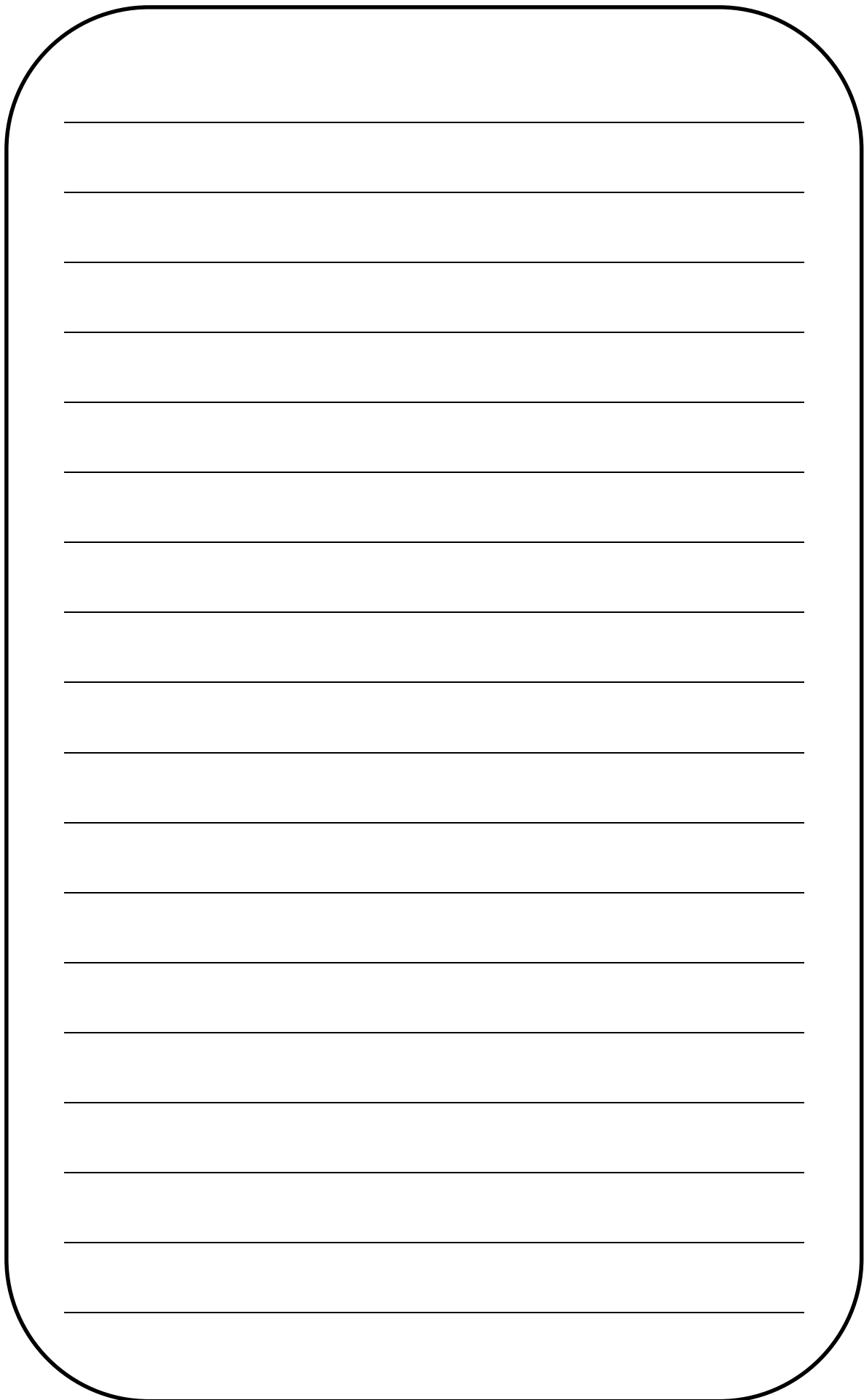
However, that 1. _____ is a big problem.

For example, 2.

To solve this problem, we should 3.

When we 3. _____, 4. _____.

7. 「多文化共生のためにはどのような工夫が必要か」について英語で自分の考えを書きましょう。
3学期のスピーチコンテストにつながりますので、みんなが理解できる英語を使いましょう。



A large rounded rectangular box with a black border, containing 20 horizontal lines for writing. The box is designed for students to write their answers in English.